

# 平成30年度 第1回 古賀市文化財保護審議会

## 会議次第

平成30年6月28日(木)  
10時00分から  
リーパスプラザこが歴史資料館  
研修室

1. 開会の言葉
2. 教育長あいさつ
3. 議事
  - (1) 古賀市指定文化財に関する調査審議  
案件：谷山の盆綱
4. 報告事項
  - (1) 平成30年度古賀市内文化財調査についての報告
    - ・船原古墳調査について
    - ・開発に伴う受託調査について
  - (2) 私年号「亀光元年」銘墓石について
5. 閉会の言葉



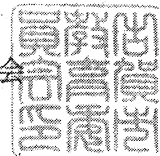


30古教文第236号

平成30年6月27日

古賀市文化財保護審議会長 様

古賀市教育委員会



### 古賀市指定無形文化財の指定について（諮問）

古賀市文化財保護条例（昭和58年条例第14号）第19条第3項の規定により下記の事項について諮問します。

#### 記

谷山の盆綱を古賀市指定無形民俗文化財に指定することについて

1. 指定区分及び種別

指定区分 無形民俗文化財

2. 文化財の名称

名称 谷山の盆綱

3. 所有者及び権限に基づく占有者並びに管理責任者又は保持者若しくは保持団体の氏名（保持団体にあつては代表者）又は名称及び住所

名称 谷山区

住所 福岡県古賀市谷山

4. 現状

毎年8月15日に実施

5. 沿革

谷山区は古賀市の東部、犬鳴山麓に位置し、谷山川に沿って形成される塊状形態集落である。

古賀市の谷山区で8月15日の夜におこなわれる盆綱は江戸時代ころより伝わり、現在も引き継がれている行事であり、昭和20年のいわゆる「玉音放送」により、広く国民にポツダム宣言の受諾と軍の降伏の決定を伝えた日にもおこなわれたそうである。

盆綱は8月15日に近い休日に谷山八幡宮の境内で綱引き用の綱を綱うことから始まる。昭和10年ごろまでは山から子どもがカンネクス、青年団がフジカズラなどを取ってきてこれを綱い綱としていたようであるが、現在では稲藁となっており、その年の世話役が用意することとなっている。境内の大きなケヤキの二又になったところを使って「エイサー、エイサー」と掛け声をかけながら半日かけて綱を綱う。直径20cm、長さ50m程の綱われた綱は鳥居をくぐらずに境内横から引き出され、綱引きを行う谷山集落の中心の通りへ運ばれる。

かつては子どもたちが「こんやー、こんやー、盆綱の加勢に来てくださいまっせー」と大きな声を張り上げて村中を練り歩いていたが、今は有線放送などで集まってもらうようになっている。

たそがれ時、区長による寄せ太鼓が鳴り、祭りがいよいよ始まる。綱引きは地元消防団と子どもや大人たちに分かれ、消防団は通りの降り側、子どもたちは通りの昇り側に位置取り場所の交代を行わずに綱引きをおこなう。綱引きの審判でもある区長の打ち鳴らす太鼓の音を合図に綱引きが始まる。勝負は2勝1敗で子どもたちが勝つこととなっている。

かつては綱の材料である藁も貴重品だったが、特別な綱であったため、誰も藁を持ち帰ることはしない。綱は境内脇に輪積みして置くこととなっている。

祭りの大願は綱に触ると子どもが元気に育つ、無病息災、先祖の霊が綱に乗って浄土に帰る（仏さまが綱にのって帰られる）などと言われているが、一番の目的は豊作祈願と考えられている（なお、谷山集落の上（山側）と下（海側）に墓地があり、その墓の橋渡しを綱引きでおこなうと説明される方もおられるが、いずれにしろ、本来の大願は不明とせざるを得ない）。

#### 6. 指定する理由


盆綱はかつて市内各所において執り行われた行事であったと思われるが、古賀市内では現在は谷山区においてのみ存続、継承されている伝統行事である。勿論、今日に至るまで綱の素材等で内容が変質したものもあるが、戦時中そしてその後も断絶することなく受け継がれていてこのことも貴重である。

以上のように、重要性に鑑み、無形民俗文化財として極めて貴重であることから指定候補としてあげるものである。

古賀市文化財指定同意書

平成30年6月11日

古賀市教育委員会 殿

住所 福岡県古賀市谷山713  
氏名 谷山区長 荒牧文日 

谷山区の所有する下記の文化財が古賀市文化財に指定されることに同意します。

記

- 1 種別、名称及び員数  
種別：無形民俗文化財  
名称：谷山の盆綱
- 2 保持団体  
谷山区
- 3 所在地 古賀市谷山

以上

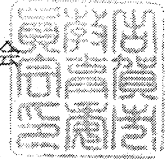


30古教文第237号

平成30年6月27日

古賀市文化財保護審議会長 様

古賀市教育委員会



古賀市指定無形文化財の保持団体の認定について（諮問）

古賀市文化財保護条例（昭和58年条例第14号）第19条第3項の規定により下記の事項について諮問します。

記

谷山区を古賀市指定無形民俗文化財の保持団体に認定することについて

1. 文化財の指定区分及び種別

指定区分 無形民俗文化財

2. 文化財の名称

名称 谷山の盆綱

3. 保持者若しくは保持団体の氏名（保持団体にあつては代表者）又は名称及び住所

名称 谷山区

住所 福岡県古賀市谷山

（福岡県古賀市谷山664 谷山公民館）

4. 指定無形民俗文化財の保持団体に認定する理由

盆綱は市内各所で行われた行事と思われるが、古賀市内で現在も存続、継承されているのは谷山区のみである。今日に至るまで盆綱に関わる構成員等も変わりながら受け継がれている伝統行事であり、よって、谷山区を無形民俗文化財の保持団体として選定するものである。



古賀市無形文化財保持団体の認定に関する同意書

平成30年6月11日

古賀市教育委員会 殿

住所 福岡県古賀市谷山713

氏名 谷山区長 荒牧文明

下記の古賀市に所在する無形文化財の保持団体に認定されることに同意します。

記

- 1 種別、名称及び員数  
種別：無形民俗文化財  
名称：谷山の盆綱
- 2 保持団体  
谷山区
- 3 所在地 古賀市谷山

以上





# 「谷山の盆綱」に関する調査報告

## 1. 谷山区の概要

谷山区は古賀市の東部、犬鳴山系の西麓に位置し、谷山川に沿って形成される塊状形態集落である。明治21年4月17日町村制発布、同22年4月1日実施となり、谷山村は小山田村、薬王寺村、薦野村、米多比村と共に小野村として発足。その後、昭和30年4月1日、小野村は古賀町、青柳村と合併し古賀町となり、谷山は行政区として今日に至る。

谷山は江戸時代からの地名表記である<sup>1</sup>。谷山村そして谷山区に至る人口動態等を概観するならば、元禄5年(1692)頃に成立した『筑前国続風土記卷卅一・卅二田圃志』では高541石余・家数40・社1・人数306、寛政11年(1799)に完成した『筑前国続風土記附録』の福岡県地域史研究所所蔵写本では家数61・人数237、明治5年着手、明治13年完成の『福岡県地理全誌』では戸数72・人口355(男160・女195)・田43町余・畠7町余・山林131町余。『明治11年の町村耕宅地戸口』では耕地109町・72戸・376人、『明治17年の町村戸口』73戸・391人、『明治19年頃 糟屋郡戸口反別』73戸・447人・田48町余・畠4町余<sup>2</sup>、昭和10年の人口357(男177・女180)、昭和21年の人口440(男211・女229)<sup>3</sup>、昭和30年の世帯数66・人口423(男204・女219)、昭和40年の世帯数69・人口382(男181・女201)、昭和50年の世帯数77・人口353(男166・女187)、昭和57年の世帯数162・人口618(男296・女322)<sup>4</sup>、平成元年307世帯・人口1088人、現在の谷山区の人口は1,509人である<sup>5</sup>。

## 2. 谷山の盆綱の概要

古賀市の谷山区で8月15日の夜におこなわれる盆綱は江戸時代ころより伝わり、現在も引き継がれている行事で、昭和20年のいわゆる「玉音放送」<sup>6</sup>により広く国民にポツダム宣言の受諾と軍の降伏の決定を伝えた日にもおこなわれたそうである。

盆綱は8月15日に近い休日に谷山八幡宮の境内で綱引き用の綱を綱うことから始まる。昭和10年ごろまでは山から子どもがカンネクス、青年団がフジカズラなどを取ってきてこれを綱い綱としていたようであるが<sup>7</sup>、現在では稲藁となっており、その年の世話役が用意することとなっている。境内の大きなケヤキ<sup>8</sup>の二又になったところを使って「エイサー、エイサー」と掛け声をかけながら半日かけて綱を綱う。直径20cm、長さ50m程の綱われた綱は鳥居をくぐらずに境内横か

ら引き出され、綱引きを行う谷山集落の中心の通りへ運ばれる。

かつては子どもたちが「こんやー、こんやー、盆綱の加勢に来てくださいまっせー」と大きな声を張り上げて村中を練り歩いていたが、今は有線放送などで集まってもらうようになっている。

たそがれ時、区長による寄せ太鼓が鳴り、祭りがいよいよ始まる。綱引きは地元消防団<sup>9</sup>と子どもたちとその加勢人とに分かれ、消防団<sup>10</sup>は通りの降り側、子どもたち<sup>11</sup>は通の昇り側に位置取り場所の交代を行わずに綱引きをおこなう。綱引きの審判でもある区長の打ち鳴らす太鼓の音を合図に綱引きが始まる。必ず一度は消防団が勝たなければならないこととなっており、消防団は相手を綱から振りほどこうと家の壁や塀にぶつかって右に左に道いっぱい揺さぶりをかける。さらに昔の火の見やぐらの基礎石に綱をくくりつけて、分団長の「ガブレ、ガブレー」の号令と共に団員の半数が綱から離れ、子どもたちを綱から引き離そうと、大きな声を出したり怖い顔をして脅かしたり、くすぐったりしてようやく勝ちを拾う。昔は子どもたちも生垣の杉の枝で青年団を叩いたりして反撃していたようであるが、今は見られない。勝負は2勝1敗で子どもたちが勝つこととなっている<sup>12</sup>。

かつては綱の材料である藁も貴重品だったが、特別な綱であったため、誰も藁を持ち帰ることはしない。綱は境内脇に輪積みして置くこととなっている。

祭りの大願は綱に触ると子どもが元気に育つ、無病息災<sup>13</sup>、先祖の霊が綱に乗って浄土に帰る（仏さまが綱にのって帰られる）などと言われているが、一番の目的は豊作祈願<sup>14</sup>と考えられている<sup>15</sup>。

#### 注

<sup>1</sup> しかしながら、集落としては谷山字古屋敷の観音堂に平安仏4体、室町時代頃の仏像2体が安置されていて、古くから存在したことは疑いない。

<sup>2</sup> 明治11年から明治19年の参考文献は『福岡県史料集 第2号』による。

<sup>3</sup> 昭和10年、同21年のデータは昭和32年『小野村誌』記載による。

<sup>4</sup> 昭和30年～同57年のデータは昭和60年『古賀町誌』記載による。

<sup>5</sup> ちなみに谷山村の村高は慶長7年(1602)の『慶長年中調各村別石高帳』では535石余、慶長10年の『慶長筑前国絵図』477石余、正保4年(1647)に成立した『筑前国中郷帳』では355石余(田270石余、畠85石余)、元禄14年(1701)に幕府へ提出した『元禄筑前国絵図』では355石余、天保5年(1834)に成立した『筑前国郷帳』では549石余、明治10年頃の『旧高旧領取調帳』541石余である。

<sup>6</sup> 「大東亜戦争終結ノ詔書(「終戦の詔書」「戦争終結に関する詔書」等ともいう)」を昭和天皇が肉声により朗読したものをレコード盤に録音、これをラジオ放送した。

<sup>7</sup> これは山の手入れも兼ねていたと説明される方もおられる。

<sup>8</sup> かつては境内の大きなモミジを使って綱を縛っていたが落雷により裂けたため、現在はケヤキを使用しているとのことである。

---

<sup>9</sup> かつては青年団であったが、現在は地元消防団となっている。

<sup>10</sup> 消防団を「海側」と説明される方もおられる。

<sup>11</sup> こちらを「山側」と説明される方もおられる。

<sup>12</sup> 勝負は必ず2勝1敗と定められている。また、その順番も定められていると説明される方もおられる。その方の説明によれば、子どもたちの勝ち→消防団の勝ち→子どもたち勝ちの順番で勝つこととされている。

<sup>13</sup> 綱に触ると1年間無病息災で過ごせるともされる。

<sup>14</sup> 子どもたちが勝つことで豊作が約束されると説明される方がおられる。

<sup>15</sup> なお、谷山集落の上（山側）と下（海側）に墓地があり、その墓の橋渡しを綱引きでおこなうと説明される方もおられるが、いずれにしろ、本来の大願は不明とせざるを得ない。



指定されている盆綱引き一覧表

県・市町村 指定区分	名称	所在	指定年月日	保護団体	公開期日
県指定	久富の盆綱曳き行事	筑後市	平成8年7月3日	久富の盆綱曳き保存会	8月14日
市指定	下臼井西盆綱	嘉麻市	平成7年7月26日	下臼井西区	8月15日
市指定	草場の盆綱引き	福岡市	平成8年3月25日	草場の盆綱引き保存会	8月15日
市指定	田隈の盆押し・盆綱引き	福岡市	平成8年3月25日	地祿天神社夏祭り保存会	8月15日
町指定	永谷万年願盆綱引き	鞍手町	昭和46年3月1日	永谷地区	8月14日
市指定	大入盆綱引き	糸島市	平成17年3月31日	大入駐在区	8月15日

刊行物の 名称	発行年	記事での名称	綱を引きあう対戦者の呼び名	由縁等
広報	昭和46年	盆綱引き		盆綱ば見んと仏様が帰らん
	昭和47年	精霊盆綱引き		
	昭和54年	盆綱引き	子供たち（一般の人も）と 若者たち	
	昭和60年	盆綱引き	消防団を中心にした青年組と 少年組	
	平成6年	盆綱引き・盆綱	海側、山側	
	平成15年	盆綱引き	山側（子供たちと加勢人）と 海側（青年）	山側が勝つと豊作と言われる
	平成18年	盆綱引き	山側（子供たちと） 海側（地元消防団の青年たち）	綱に触れるとケガをせずと育つという言い伝え
	平成19年	盆綱引き		
	平成22年	盆綱引き	子供チームと 青年チーム	
	平成24年	盆綱引き	山側（子供たち）と 海側（地元の青年たち）	
	平成25年	盆綱引き	子供たち（山側）と 地域の青年たち（海側）	綱に触ると1年間無病息災で過ごせると言い伝え
	昭和60年	盆綱	青年消防と 子ども会その他の大人の人	仏さまが綱にのって帰られるということから始まった

# 広報こがまち

KOHO KOGAMACHI



谷山 盆綱引き

8月15日

# 勇 壮

特集

人にとって宝物とは何なのか、盆綱を追う

地域の伝統行事が次々と姿を消して行くなかで何百年の間、引き継がれている祭や行事が今なお残っている。そこには人々を魅了する何かがあり、人と人のきずなは強く結ばれている。それは何故か、盆綱引きを追って見た。



1994

9

No.452

平成6年(1994)





# 谷山 盆綱引き

お盆の八月十五日の夜、谷山の集落を真ん中に通る往還(道路)に地元の人たちが集まりにぎやかに大綱引きをする習わしが、古くから伝わっています。十五日の早朝、子どもたちが準備した



藁を桶に詰めて綱を編み準備

藁(昭和二十年以前はカスラを山からとってきていた)を使って、地元消防団の青年たちが八幡宮の境内で綱作りにかかり、直径三センチメートル、長さ六十メートルぐらいの綱が編みあげられます。午後八時に区長の太鼓の合図とともに、山側と海側に別れて引き合います。海側には地元消防団の青年たち、山側には小学生以上の子ども・父母、それに帰省中の

人たちが加わって綱を持ちます。山側が勝つとその年は豊作だといわれ、山側にたくさんの方が加勢します。綱引きは三回しますが、三回の中で不思議と二回は山側が勝つそうです。また、この綱に



しだいに綱が逆びる大綱

は先祖の霊が乗って帰られるとか、子どもが綱にさわると元気に育つという言い伝えもあります。今年、八月八日、農家に取っておいでもらった百把ほどのもち米の藁を、子どもたちが綱が編めるように梳いて準備をしました。十五日には、消防団の青年たちが朝早くから八幡宮の境内にある大きな木の二又になったところを使って、



人がかりで運ばれる大綱



青年による照明の準備



元気に育ってね!

「エイサー、エイサー」と掛け声を掛けながら、四時間ほどかけて編みあげました。夕方になると、海側の引き手である青年たちが照明の準備に取りかかり、大綱



大人の加勢で始まる綱引き

が谷山の中央の道に引き出されました。そして「トンコントン、トンコントン」と寄せ太鼓が鳴りはじめると、家々から太鼓の音につられるようにたくさんの人が大綱のまわりに集まってきました。午後八時、「ドーン」と区長さんが打ち鳴らす太鼓の音を合図に、子どもたち、そして加勢人の大人たちが山側に、上半身はだかの青年たちが海側に別れて始ま

## 盆綱に思いを寄せて



木梨清和さん(46歳)

昔は消防団や青年たちは、ステテコ姿、上半身裸で盆綱を引いていました。消防団の方も、せんぶ負けるわけにはいかなくて、必ず一回は勝たないかんとすよ。それで分団長が中心になって、その一回を如何にして勝つか作戦を練っていました。たとえば、「ガブリ」いれるか、いっせさぶりをかけるか、をです。ガブリとは、子どもたちの側について、怖さを感じさせて綱から引き離すことです。消防団の新米のころ、ガブリの号令のかかるのが好かんかった。子どもたちから、生け垣の杉の枝で背中を叩かれるんです。ものすごく痛かったんです。区長はこの行事の総責任者ですが、これが終わるまで心配です。たくさんの方が集まって、そして綱が切れず、無事に終わったらホッとします。しかしこの頃は、子どもの参加が少なくなりましたネ。私が子どもころは、村中の子どもがみんな集まっていたけれど、それがまた減りました。このような伝統行事を子どもたちに教えていくのは大人の責任かも知れませんが、なにか知恵をひかって、来年もまたたくさんの方が参加するよって、そしてまた地域を越えたふれあいの場にした

今年も豊作まちなし。

りました。青年たちは力水をかかりながら、顔をまっ赤にして一生懸命綱を引きます。しかし多勢に無勢、青年たちはなかなか勝てません。何とか相手を綱から振り解こうと、家の壁や塀にぶつかりながら道いっばい右に左にゆさぶりをかけます。しかし、やっぱり勝てません。とうとう、青年たちは綱の端を、昔の火の見櫓の基礎石に結びつけ、指揮者が時を



綱を引く青年たち

みはからって「がぶれー」と合図をする。と、半分ほどの青年たちが、子どもたちを綱から引き離そうと怖い顔をして山側に走って攻めこんでいきます。くすくすたり、大きな声をだしたりして脅しますが、この頃は子どもたちも慣れたもので、なかなか怖がらず、青年たちの背中などを叩いて喜んでいきます。しかしこの作戦で何とか一勝し、青年たちは面目を保ちました。勝負は、二勝一敗で山側が勝ち

盆に綱引きをする風習は広く県下に行われていました。目蓮尊者(釈迦の十大弟子の一人)が地獄の釜から母親を引上げたという仏教説話が盆綱引きの起りとする所は多いけれど、仏教説話以外に年占(一年の吉凶を占うこと)としての綱引きが伝承されたところもあります。



負けじと頑張る子どもたち

飯塚市相田の盆綱では大綱に枝綱をつけ、引き合うと綱が持ち上がり、ゆるめると地面をたたく地震が行われ、嘉穂郡桂川町吉隈では男女が引合い、女が勝つと豊作になるといいます。福岡市西区玄界島では、綱引きが終るとそのまま切断し、この上に二、三十束の麦わらを積み上げ、火をかけて精盤の大送り火にします。中でも有名なのは筑後市久富、熊野神社の盆綱引きで、全身をすすみで黒く塗

り、目玉を光らせた子どもたちの集団が頭に角のある綱鉢巻きと腰蓑をつけ、地獄に落ちて苦しむ亡者たちを、せめて盆の間は救い、綱で極楽に引き上げて慰めようと盆綱を引いて走ります。



青年の心にも耐えて

谷山の盆綱引きも各地で行われている盆綱引きの一つであるけれども、何百年もの伝統を持ち今日まで受け継がれてき

た行事です。子どもからお年寄りまで、谷山で育った人、住んでいる人、みんなが楽しみにしている盆の一大行事盆綱引き、この勇壮な伝統行事を地域の宝として、これから先いつまでも守り続けられていくことでしょう。



かたる(参加する)人が少なくなっても続けたいかないかん。

小室一美さん(70歳)

子どものころは山から力アツを取ってきく盆をいよりましてネエ。盆のあいだは仕事か休めになるので、なまけ癖がつかないよう、綱をなうのを青年たちがさせられよりました。

十五日は朝から子どもたちが、「盆綱の加勢にきてくださいいませー」と、大きな声をほりあげて村中を回り歩いて、やましがったア。

夜になって「トントントン、トントントン、みんな出てこい」と、寄せ太鼓が鳴りはじめると村中のもんがあつまってきたて、区長の太鼓の合図で綱引きが始まり、勝負がつくとまた区長が太鼓を鳴らした。

荒々しい綱引きはってん、不思議とケガ人は出たことがありません。子どもたちやあ綱にぶらさがってけーと言って、加勢人の大人たちが頑張りよったからネエ。盆に里帰りしてきたもんも、懐かしがって加勢するし。

終戦の年でもやめんで昔から続けてきた行事やから、かたる(参加する)人が少なくなっても続けたいかないかん。綱のないかたやから、太鼓の叩き方や教えていけないかないネエ。





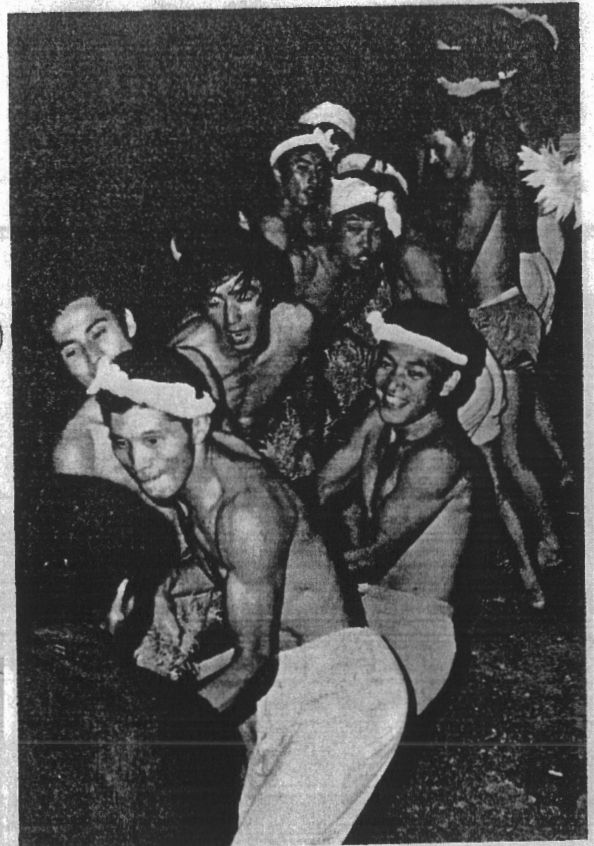
夏の夜の男の祭り  
(谷山の盆づな引き)

昭和46年(1971)

八月十五日の夜谷山区で、裸の若者たちが「ヨッショ」「ヨッショ」と、綱も切れんばかりに、勇壮な盆綱引きをしました。

「盆綱ば見んと仏様が帰らんとおっしゃるもんじゃけん、毎年、そう百年以上も続きよります」と長老が語ってくれました。

谷山 勇壮な盆づな引き



▲絶えることなく行なわれる、綱も切れんばかりの精霊盆綱ひき(8月15日夜・谷山区)

昭和47年(1972)



▲「ヨッショイ ヨッショイ」負けないぞ。8月15日の夜に谷山では、盆の伝統的行事「盆綱引き」が勇壮に行われました。長さ70メートル、直径30センチの綱を子供たち(一般の人)と若者たちが、太鼓を合図に掛け声も勇ましく綱引きをしました。

昭和54年(1979)



健康と豊作を祈る「盆綱」引き

8月15日の夜、昔から谷山に伝わるお盆の行事「盆綱引き」が区内で行なわれました。ひさしぶりに里帰りをしたという人は「今でも続いていることがうれしい」と、懐かし顔。太鼓を合図に、消防団を中心にした青年組と少年組が盆綱を引き合う「ヨイショノ」のかけ声が村中に響きわたっていました。ふるさとって、いいもんだ。

昭和60年(1985)



熱い熱い綱引きでした

8月15日(金)●谷山、盆綱引き

お盆の8月15日(金)谷山区で盆綱引きが行われました。これは山側(子どもたちと加勢人)と海側(青年)に分かれて綱を引き、山側が勝つと豊作だと言われる綱引きです。午後8時、たくさんの方が集まり、綱引きが始まりました。谷山のこの綱引きは荒々しいのが特徴で、海側の青年たちは、壁や塀に体をぶつけながら、綱を揺さぶりましたが、結果は山側の勝ち。今年は豊作が期待できそうですね。

平成15年(2003)





### 破顔一笑、健康祈願 谷山伝統行事“盆綱引き”

谷山の盆綱引きは古くから伝わる伝統行事で、直径10cmを超える大綱を海側山側に分かれて引き合います。山側を引くのは子どもたち、海側は地元消防団の青年たち。実は、この綱に触れるとけがをせずすくすくと育つという言い伝えがあるそうで、大声援を受けながら、子どもたちは懸命に綱にしがみついています。掛け声に合わせて綱を引き、上下左右に揺さぶりをかけながら一進一退の白熱した綱引きでしたが、2勝1敗でなんと子どもたちが勝ちました。

平成 18 年 (2006)



8月15日、夕闇が辺りを包むころ、谷山地区に盆綱引きの始まりを告げる太鼓の音が響き渡りました。盆綱引きは古くから伝わる伝統行事で、子どもチームと青年チームの日本勝負。激しい競り合いの結果、子どもチームが快勝し万歳の声が沸きました。

平成 22 年 (2010)

### がぶりに 負けるな!



8月15日、谷山区で古くから続く伝統行事である盆綱引きが行われました。夜8時、地元の青年たちと子どもたちが、海側山側に分かれて綱引きがスタート。この盆綱引きでは、山側の子どもたちを綱から引き剥がそうと、海側の青年たちが綱を左右に大きく振ったり、大きな声で脅かしたりする「がぶり」が行われるのが大きな特徴です。子どもたちは涙目になりながらも、保護者や地域の人たちの助けを借りて勝負を制しました。

平成 24 年 (2012)

### しっかり、がぶれや!

8月15日、谷山区に伝わる伝統行事「盆綱引き」が行われました。地域の青年たち(海側)と子どもたち(山側)が競うこの綱引きは、青年たちが綱を道いっぱいに揺さぶったり、綱を引く子どもたちを脅かす「がぶり」を行うのが大きな特徴です。また、綱に触ると1年間無病息災で過ごせるといふ言い伝えもあり、綱引きの合間には参加できない幼い子どもたちが綱に触りにくる光景も見られました。



平成 25 年 (2013)

## 4-(1) 船原古墳調査について

### ①平成 29 年度速報展及びマスコミ報道について

#### 概要

平成 29 年度までの出土品の調査によって新たに明らかになった、全国唯一の金銅の飾馬具で構成された馬装について報道発表を行った。馬装を構成するのは、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡 1 点、鳳凰文心葉形杏葉 3 点、ガラス装飾付金銅製雲珠 1 点、ガラス装飾付金銅製辻金具 9 点であり、馬装復元案とともに出土品を公開した。あわせて、報道発表翌日から平成 29 年度国史跡船原古墳速報展で該当の出土品を展示することを発表した。

#### 報道発表の結果

実施日時：平成 30 年 3 月 28 日（水）15 時から

参加者：朝日新聞 2 名

西日本新聞 1 名（後日文化部記者が別途取材）

読売新聞 1 名

毎日新聞 2 名（うち 1 名は学芸部記者）

RKB ラジオ 3 名

J:COM 1 名

配布資料：別紙参照

報道（新聞記事については別紙参照）：

平成 30 年 3 月 29 日（木）朝日新聞 27 面(福岡)、毎日新聞 24 面(地域)に掲載

平成 30 年 4 月 8 日（日）毎日新聞 27 面(文化・芸能)

平成 30 年 5 月 10 日（木）西日本新聞 11 面(文化)

#### 速報展来館者について

速報展期間：平成 30 年 3 月 29 日（木）～5 月 23 日（水）

総来館者数：1,444 人

来館者数推移：別紙参照

## 国史跡船原古墳 全国唯一の金銅の飾馬具セットについて

### 1. はじめに

船原古墳 1 号土坑の出土品のうち、馬具は現在のところ轡<sup>くわ</sup> 6 点、杏葉<sup>きょうえつ</sup> 6 種 18 点以上、雲珠<sup>うんしゆ</sup> 4 種 13 点以上、辻金具<sup>つじかみかぎ</sup> 3 種 24 点以上などを確認しており、轡が 6 点あることから、現時点では 6 頭分の馬装の組み合わせを想定して検討を行っている。そのうち今回は、全国唯一の例となる金銅の飾馬具で構成された馬装について発表する。

### 2. 馬具のセットの検討

1 号土坑から出土した轡と杏葉のうち、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡の鏡板と鳳凰文心葉形杏葉 3 点はほぼ同じ大きさで、地板鉄板+金銅板+文様板+縁板の 4 層構造で縁部を鋸留めするという技術的特徴も共通しており組み合わせるものと考えられる。

土坑の中での出土位置をみると、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡は土坑北側の金銅装鞍の脇から出土しており、6 点のガラス装飾付金銅製辻金具とともに発見されたことからひとまとまりのものであったと考えられる。

一方、鳳凰文心葉形杏葉は土坑南側の木製の箱の北東隅付近から出土している。近くからは、1 点のガラス装飾付金銅製雲珠と 2 点のガラス装飾付金銅製辻金具が出土した。なお、箱の中央付近からもガラス装飾付金銅製辻金具のガラス装飾が 1 点見つかっているが、ガラス装飾を用いた馬具はガラス装飾付金銅製雲珠・辻金具のみのため、鳳凰文心葉形杏葉の近くから出土したガラス装飾付金銅製辻金具と組み合わせるものと考えられる。

以上の出土状況から、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と鳳凰文心葉形杏葉はガラス装飾付金銅製雲珠・辻金具と組み合わせるものと推定される。忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と 6 点のガラス装飾付金銅製辻金具で面繁、鳳凰文心葉形杏葉 3 点とガラス装飾付金銅製雲珠 1 点、ガラス装飾付金銅製辻金具 3 点で尻繁といえる。

### 3. 全国初となる金銅の飾馬具のセット

今回公開する金銅の飾馬具を構成する忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と鳳凰文心葉形杏葉のように透彫で文様を描いた心葉形鏡板付轡・杏葉の出土例は国内に 30 例ほど知られているが、このうち轡と杏葉が揃って出土しているのは 12 例ほどしかない。さらに、ガラス装飾付金銅製の辻金具と雲珠が組み合わせる例は船原古墳のみである。

### 4. 今回初公開の轡と杏葉の注目点

#### ○文様板の製作技法

忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と鳳凰文心葉形杏葉は、縁金を多くの鋸で装飾し、文様板に立体的な薄肉彫により動植物を表現し、毛彫りなどで加飾しており、心葉形鏡板付轡・心葉形杏葉の中でも精緻な一群である。このうち轡と杏葉が揃って出土しているものは、船原古墳の他に奈良県藤ノ木古墳(国宝)、奈良県珠城山 3 号墳、静岡県御小屋

# 船原古墳から出土 金銅の飾り馬具を公開

古賀市教委 きょうから速報展



クリーニングが完了し公開される  
船原古墳出土の馬具

古賀市教委は28日、リーパズプラザこが歴史資料館で、国史跡の船原古墳（6世紀末～7世紀初頭）から出土しクリーニングを終えた金銅の飾り馬具セットを報道陣に公開した。当時の東アジア最高レベルの金工技術で精緻な文様が施されている。28日から5月23日まで同館で速報展を開催する。入館無料。公開される飾り馬具は朝鮮半島でも見つかっている。ハート形の鳳凰文心葉形杏葉と忍冬唐草文心葉形鏡板付轡や、ガラス装飾付辻金貝・雲珠からなるが、これらすべてが

組み合わせられた馬具セットは国内では唯一という。

2013年の発掘調査で一号土坑から、6頭分ほどの飾り馬具が武器や農耕具とともに出土（総数約500点）した。特に金銅（金メッキした青銅）の轡や杏葉は透かし彫りで豪華にデザインされ、当時は黄金色に輝いていたとみられる。奈良県の藤ノ木古墳の出土品（国宝）などに匹敵するとされる。

九州歴史資料館（小郡市）がクリーニングを担当、形や構造などで新たな知見も得られ、改めて馬具や製作技術の移転、当時の東アジアの動向を知る資料と認識された。今後

も新羅などからもたらされたものか、国産かなどについて調査する。

速報展では、実物のほか三次元プリンターで製作した復元模型、実物大の古代馬レプリカも展示。併せて「船

原方式」と呼ばれる古墳調査で確立された三像やパネルで解説する。

【前田敏郎】

3/29毎日 地域面

## 浮上するいくつかの謎 船原古墳速報展

福岡・古賀市歴史資料館



船原古墳から出土した杏葉の復元模型

豪華な馬具が遺物埋納坑から出土して注目されている福岡県古賀市の船原古墳の速報展が、同市歴史資料館で開かれている。展示を見ていると「実際はどう使ったのか」「なぜ土坑から複数頭分の馬具か？」とい

くつもの疑問があらためて浮かび上がった。展示しているのは、馬に付けるベルトを固定するガラス装飾付辻金貝や馬の体飾る金銅製の杏葉などの出土品とその復元模型、埋納坑の模型など。埋納坑の3次元データをパソコンで見られることもできる。

出土品は九州歴史資料館（同県小郡市）でクリーニングされたとはいえ、当時の様子をつかがい知ることができない。それを補うのが色や輝きを再現した復元模型だ。

この馬具を馬に付けていたとすると、太陽の光を反射し遠くからでもすぐに判別できたという。なぜベルグ

んは「金貝の裏にベルトの痕跡があるかどうかを調べている」と話す。豪華な金属製品に、目や向くが、付着した土に含まれる有機物の調査も今後の重要なポイントになる。

複数頭分が見つかった馬具は、全てが同等の品ではないという。なぜベルグ

う。戦場では敵の目標になりやすく、危険な印象もある。あるいは儀式用だったのか。形状から一馬具とされているが、馬に付けた証拠はあるのか。古賀市教委文化課の岩橋由孝は「23日まで。無料。古賀市立歴史資料館11092（944）62114（古賀英毅）」

## 文化

ファクス 092(711)6243  
メール bunka@nishinippon.co.jp

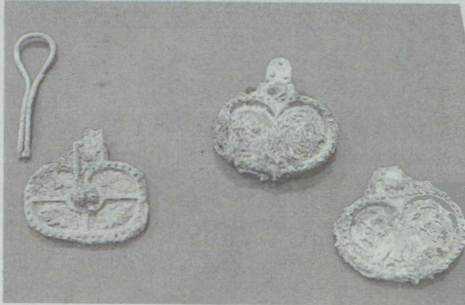
5/10西日本 文化面



# ガラス装飾と一式飾馬具

## 国内唯一 古賀・船原古墳の轡轡など

**3/29朝日**  
古賀市の船原古墳で出土した馬具類を調べたところ、馬の頭の部分と尻の部分に飾る金銅製の轡と杏葉が新たに見つかった。これまでに見つかったガラス装飾付きの金銅製辻金具などとセットの飾馬具は国内唯一という。古賀市教委が28日、発表した。

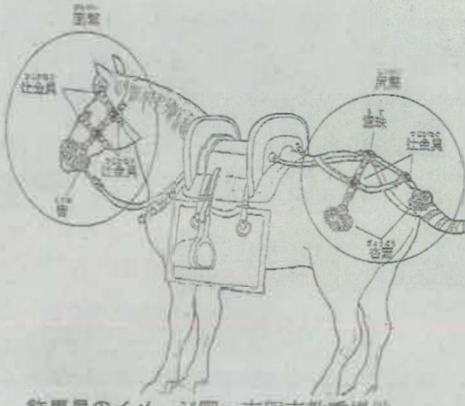


船原古墳から出土した飾馬具＝古賀市立歴史資料館、長沢幹城撮影

船原古墳は6世紀末から7世紀初頭のもので、これまでに古墳脇の土坑からガラス装飾付き金銅製辻金具など豪華な馬具類が出土。九州歴史資料館（小郡市）で調査を続けていた。今回見つかったのは忍冬唐草文心葉形鏡板付轡と鳳凰文心葉形杏葉。ガラス装飾りなどで立体的に表現した

### 市が速報展

飾り金銅製辻金具や雲珠と組み合うものと考えられるという。轡や杏葉がそろって出土した例はあるが、辻金具などとセットで出土した例はこれまでなかったという。



飾馬具のイメージ図＝古賀市教委提供

3/29朝日 地域面

ており、藤ノ木古墳出土品（国宝）に匹敵し、東アジア最高ランクの製作技術だったとみられる。今回、轡が6点あることもわかり、6頭分の馬具が埋納されたとみられる。古賀市は轡、杏葉の実物のほか、往時を再現した黄金に輝くレプリカなどを展示した船原古墳速報展を29日から古賀市立歴史資料館で開催する。

（馬部昭彦）

## 精巧な作り「東アジア最高級」

市教委の岩橋由幸主任は「東アジアで最高級品とされる藤ノ木古墳（奈良県）に匹敵する」とみている。市教委によると、同じ形状の轡と杏葉の出土は全国で約30例あるが、船原古墳ほど精巧なものが一つも出土するのは、藤ノ木古墳や珠城山古墳（奈良県）、御小原古墳（静岡県）の3例だけ。女児養古墳には金銅製馬具出土の古墳が多く、船原古墳では古代朝鮮・新羅が源流とみられる馬具が既に見つかっている。一方、藤ノ木古墳の馬具の製作地は中国、朝鮮半島、日本などの説がある。今回の馬具確認で、当時の日本全体への馬具の伝来を探る重要な資料が新しく加わった。その点に意義がある。同市立歴史資料館（0944・9444・6214）で5月23日まで公開中。無料。【大森顕浩、写真も】

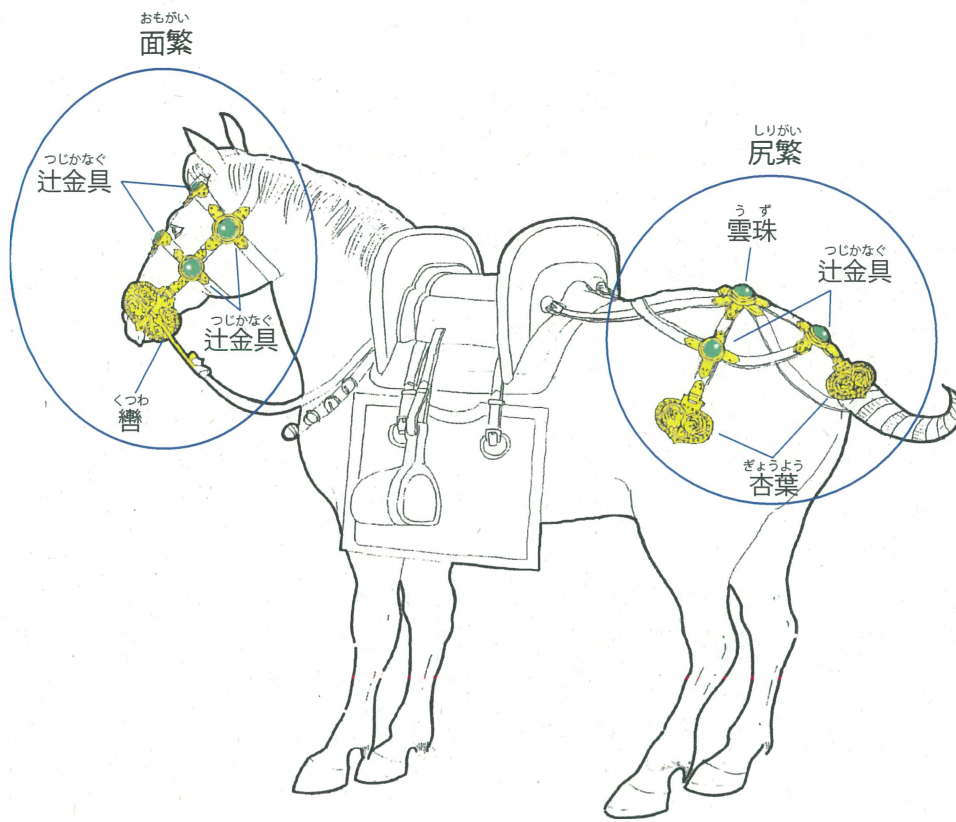
### 福岡・船原古墳 金銅製馬具



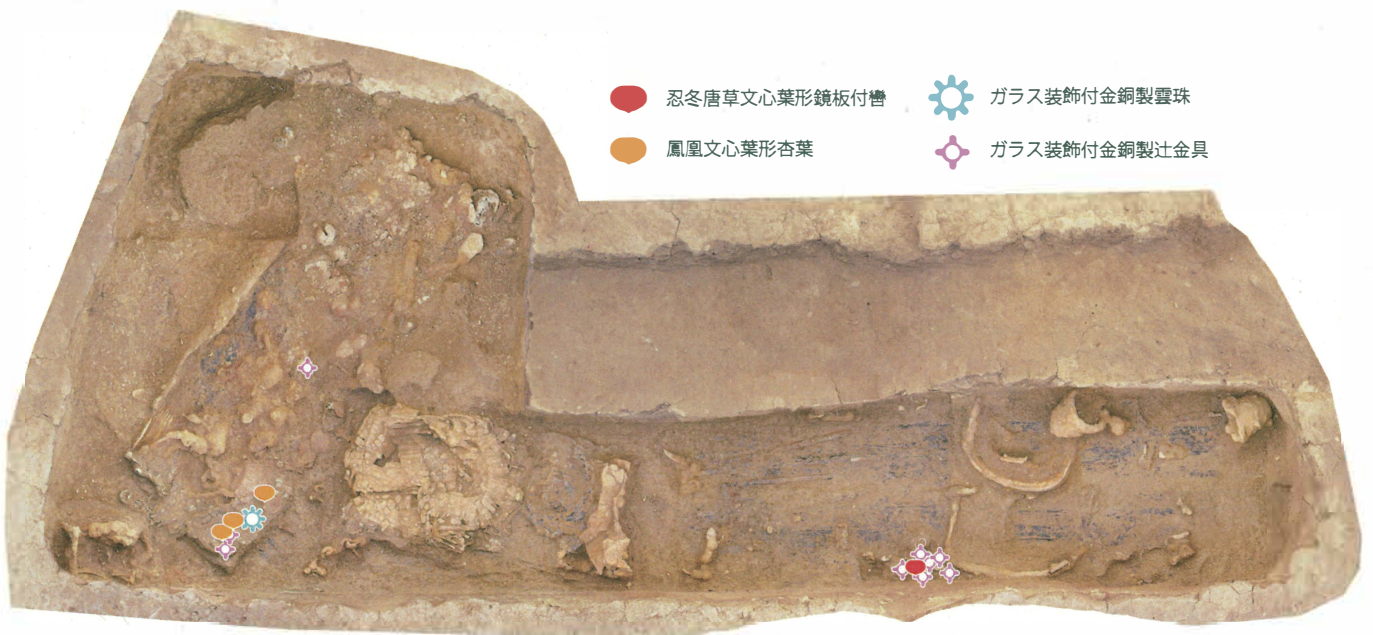
船原古墳から出土した轡や尻の装飾品の金銅製馬具「鳳凰文心葉形杏葉」。ハート形の中に鳳凰の文様がある。馬の口にはめる金銅製馬具「忍冬唐草文心葉形鏡板付轡」。スイカズラのようなツル草の文様が描かれている。いずれも福岡市古賀市で

4/8毎日 文化面





今回発表する馬装復元案と馬具の名称  
 (福岡大学教授桃崎祐輔氏の馬装案を基に改編)



今回発表する金銅の飾馬具の出土位置

原古墳（重要文化財）のみである。

船原古墳の鳳凰文心葉形杏葉は線彫りの間隔が 0.5-0.7mm であり、同じ系譜の珠城山 3 号墳例の線彫りの間隔が 0.3-0.5mm であることと比べると若干の省略表現がみられ、鋸数も減少する。このことから、船原古墳例は珠城山 3 号墳例よりも後出するものと思われる。

船原古墳の忍冬唐草文心葉形鏡板付轡の鏡板は、珠城山 3 号墳、藤ノ木古墳の例と比較すると、忍冬唐草文の構図がわずかに異なっている。船原古墳例は、厚手の銅板に透彫・薄肉彫を施し、更に毛彫りにより流麗なパルメットが表現され、その精緻さは珠城山 3 号墳、藤ノ木古墳の鏡板と比肩するものである。

以上より、鳳凰文心葉形杏葉は、文様の精緻さにおいては製作工人の技量が珠城山 3 号墳、藤ノ木古墳のものよりやや劣る。一方、心葉形忍冬唐草文鏡板は、その精緻さから製作工人の技量においてトップレベルのものである。

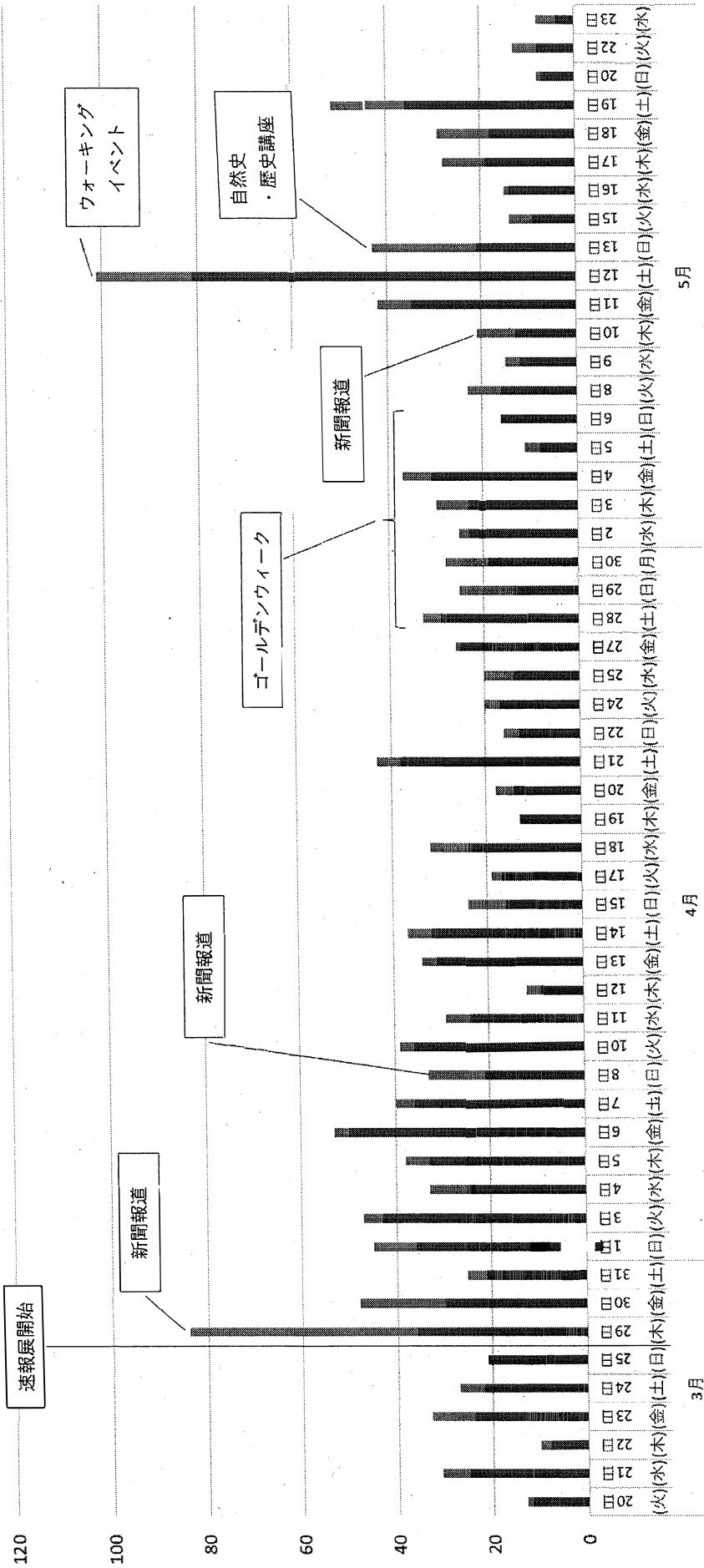
#### ○引手の素材

金銅装の忍冬唐草文心葉形鏡板付轡の引手素材には、金銅製と鉄製の 2 つのタイプがあり、時期的には金銅製に古い時期のものが多く、また金銅製の引手が階層的に上位と想定されている。船原古墳の轡の引手は金銅製で、他には藤ノ木古墳、福岡県宮地嶽古墳、御子屋原古墳、山梨県古柳塚古墳の 4 例しかない。

## 5. まとめ

古賀市船原古墳 1 号土坑から出土している金銅の飾馬具は、その豪華絢爛なデザイン性はもとより、馬具の組み合わせや個々の製作技法の観点においても日本列島のみならず東アジアにおいて最高ランクに位置づけられるものである。また、類似した馬具は国内のみでなく朝鮮半島でも発見されていることから、馬具そのものの流通もしくはその製作技法の移動も想定され、今回の発見を含む船原古墳の出土品が東アジアの動向を知る上で重要な資料であることが改めて認識される。

■ 市内 ■ 市外



速報展期間中の歴史資料館入館者数の推移

## ②平成 30 年度の事業について

### 発掘調査等補助事業

- 概要報告書作成
  - ・平成 29 年度までの調査成果を中心とした内容
  - ・平成 30 年度末刊行予定
  
- 出土遺物整理
  - ・出土遺物のクリーニング・接合等の作業 180 点
  - ・出土遺物の実測作業 200 点
  - ・遺物出土状況の三次元データ作成

### 地域の特色ある埋蔵文化財活用補助事業

- パンフレット作成
  - ・一般向けに遺物の調査研究を通して明らかになったことを発信する
  - ・A4 裏表カラー印刷で毎回一つの遺物を取り上げる
  - ・今年度は馬冑、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡、円形鏡板付轡について作成
  
- パネル展
  - ・古賀市立歴史資料館等で調査研究成果についてパネル展を行う
  
- 講演会
  - ・古賀市立歴史資料館で行っている自然史・歴史講座で船原古墳関連講演会を行う  
平成 30 年 5 月 13 日（日）13:30～15:30  
「船原古墳最新情報 2018～今明かされる豪華馬具の高度な技術力～」  
小林 啓（九州歴史資料館学芸調査室）  
「古代馬の模型作成について」  
甲斐孝司（古賀市教育委員会文化課）
  
- 出土遺物復元画像作成
  - ・資料館の来館者がパソコン等で遺物を 360° 様々な角度から見るができるようにするため CG 画像を作製
  - ・今年度は忍冬唐草文心葉形鏡板付轡、ガラス装飾付金銅製辻金具、円形鏡板付轡について作成

### ③一般向け書籍の刊行について

●新泉社『遺跡を学ぶ』シリーズによる刊行が決定（6/1 新泉社編集委員会にて）

●刊行年：未定

●著者

甲斐孝司・岩橋由季（古賀市教育委員会）

●目次（案）

1. 発見の経緯
  - 1) 世紀の発見（1号土坑発見の経緯）
  - 2) 発掘調査の経緯
  - 3) 関係機関との協議、発掘調査期間の延長
  - 4) 記者発表と現地説明会
2. 最新技術を用いた発掘調査
  - 1) 調査の方針
  - 2) 三次元計測
  - 3) 遺物の取り上げ
  - 4) CT スキャン
  - 5) 最新技術を用いた発掘調査の成果
3. 出土品の価値
  - 1) 出土品の内容
  - 2) 注目すべき遺物
  - 3) 出土品の価値
4. 船原古墳の被葬者像
  - 1) 平成8年調査の経緯
  - 2) 1号土坑周辺の調査と成果
  - 3) 船原古墳の位置付け
- 4) 船原古墳の被葬者像
5. 船原古墳の今後



平成30年度 埋蔵文化財発掘調査業務予定一覧

事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
流遺跡5次調査地 (福岡女学院看護大学)													屋外現地発掘調査は5月末まで実施。 引く続き整理作業等
井手流遺跡5次調査地 (民間受託)													
小竹七俵遺跡 (民間受託)													

上記の他、試掘・確認調査等あり。





古賀市文化財保護審議会長 様

古賀市教育委員会

古賀市指定有形文化財の指定について（諮問）

古賀市文化財保護条例（昭和58年条例第14号）第4条第3項の規定により下記の事項について諮問します。

記

私年号「亀光元年」銘墓石を古賀市指定有形文化財に指定することについて

1. 指定区分及び種別

指定区分 有形文化財  
種別 考古資料

2. 文化財の名称及び員数

名称 私年号「亀光元年」銘墓石  
員数 1基

3. 所有者及び権原に基づく占有者並びに管理責任者又は保持者若しくは保持団体の氏名（保持団体にあつては代表者）又は名称及び住所

名称 古賀市  
代表者 市長 中村 隆象  
住所 福岡県古賀市駅東一丁目一番一号

4. 管理場所

名称 古賀市立歴史資料館  
住所 福岡県古賀市中央二丁目十三番一号

5. 現状

古賀市立歴史資料館にて保管、展示。

6. 指定対象物件

私年号「亀光元年」銘墓石 1基  
高さ53cm、幅38cm、厚さ26cm。

## 7. 沿革

私年号はこれまでに50例以上が知られているが、「亀光」は見当たらない。したがって新発見の私年号である。

「亀光」の使用例は現在のところ2例ある。一つは福岡県古賀市新原所在の高木・前田遺跡第2地点で発見された花崗岩製の墓石で、「亀光元年戊九月廿五日」と彫られている。もう一つは、『九州大学法学部蒐集文書』の「福岡県文書」として纏められた「山本屋文書」の証書類の内、「山本屋甚兵衛」が講中に入れた「講鋪證文之事」に「亀光元年戊九月」とある。一方は金石文、他方は古文書で、その性格及び内容などから後世の偽作でないことは明らかである。また「亀光」に似る公年号はなく、誤記・誤読によるものでもない。よって、使用当時公年号が存在しているにもかかわらず、創作されたものであることは疑いない。さらに「山本屋文書」については、これを認める裏書もあることから、この年号が通用していたこともわかる。なお、確認されている2例がいずれも「亀光元年戊九月」で共通することから、ごく短期間に使用された可能性も考えられてよく、このことも、私年号の特徴に当てはまるものである。

「亀光」の建元年次について、三池賢一氏は「山本屋文書」に使用された名義の配列状況から「亀光元年」は文久2年(1862)が最も妥当であると考えた<sup>(1)</sup>。一方、「亀光元年」銘墓石の考古学的検討結果からも文久2年(1862)が妥当のように思われる。したがって、「亀光元年」は文久2年(1862)の建元と考える。

なお、「亀光」の二字はともに佳字といってよい。通例、公年号と私年号は無関係には成立しない場合が多いとされるが、公年号などの使用例とは関係なく、佳字二字を選び創作されたものであろう。また瑞兆とされる亀へ世情一新の願いを託したもので、このような文字の選定などは瑞祥改元を窺わせ、復古的傾向と捉えることができるように思われる。このような「亀光」・発案者は不明とせざるを得ないが、いずれにしろ教養ある人物であろう。

また、私年号の使用者、およびその使用範囲は、「山本屋文書」から福博町衆の中で「亀光」年号が使用されたことは疑いなく、これに関わる組織などでの使用は考えられてよい。ただし、墓碑に刻された人物像はわからず、使用者が福博町衆関係に限定されたものであったのかは不明である。またその使用範囲についても、現在のところ、福岡藩領域を越えないであろうと推定するに止めざるを得ない。

なお、「亀光」、そして幕末頃に建元された他の私年号もあわせて共通するのは、時代背景として幕末期の世情不安が考えられ、そしてその使用が、地域限定的で比較的短期間使用されたと思われる点などが挙げられよう。

## 8. 指定する理由

「亀光元年」は福博町衆の証文に使用、通用していた年号である。また、古賀市内で発見された「亀光元年」銘墓石により、その使用、通用範囲の知られる極めて珍しい資料である。また、江戸期の私年号の使用例も少なく、この点も貴重である。加えて建元年次も明らかで、時代背景などを窺い知ることができる資料といえる。

以上のように、資料の重要性に鑑み、考古資料として極めて貴重であることから指定候補としてあげるものである。

## 注

<sup>1</sup> 三池賢一 2004「私年号「亀光」について」『高木・前田遺跡3』158-159頁 古賀市教育委員会